OTC薬を上手に使う･･･上手のヒント②　副作用を防ぐ

OTC薬を上手に利用するヒントの一つに「薬剤師を大いに利用する。黙って薬を指名するのは損と心得る」を挙げました。これは、実際にお店に行って買う場合でも、ネットで買う場合でも同じですが、ネットの場合は専門家とのやりとりが十分とはいえません。
例として、Hさんが頭痛薬○○Aを買おうと思って店に入ったとしましょう。あなたはどのパターン？

＜パターン1＞
Hさん:　○○A48錠ください。
薬剤師:　はい、500円です。ありがとうございました。

＜パターン2＞
Hさん:　○○A48錠ください。
薬剤師:　○○Aが合うのですか？
Hさん:　初めてなのでわかんないけど、前に★★Bを飲んだら、身体がかゆくて気持ちが悪くなったので、これに替えてみようかと思って･･･。
薬剤師:　ちょっと待ってください。★★Bと○○Aは同じ成分だと思いますので、確認しますね。
･･･やはり同じ成分の薬です。皮膚の症状がひどくなることもありますから、避けた方が良いと思います。症状は頭痛ですか？
Hさん:　はい、他にいい薬はありますか？
薬剤師:　絶対大丈夫というものはありませんが、かぜ薬を飲んだことはありますか？
Hさん:　いつも、△△ゴールドを飲んでいるけど大丈夫です。
薬剤師:　それでは△△ゴールドに含まれている鎮痛薬と同じ成分の××鎮痛薬がいいかと思います。様子に気を配りながら飲んでみてください。

パターン1では、Hさんと薬剤師が薬剤に関する会話を全くしていないケースですが、
よくあるパターンです。薬剤師は「薬剤師の仕事」をしていません。
パターン2では薬剤師がひと声掛けたことが幸いしました。

解熱鎮痛薬には、アレルギー症状やショック、重篤な皮膚障害などの副作用がありますから、初期の症状に気付き、その薬剤を避けることが重要です。そのために情報交換が必要なのです。とくに一度でも副作用を経験したひとは、薬剤師に聞かれなくても必ず話してください。Hさんも、前に飲んだ薬のことを話さなければ副作用が起きたかもしれません。「黙って薬を指名するのは損」という意味がおわかりいただけたでしょうか？
ひと言でも、「前に鎮痛薬を飲んで、合わなかった」と言ってもらえれば、薬剤師はリスクを避けるために、いろいろなことを考えて適材を選びます。場合によっては医師受診を勧めることもあります。